

復刊

いざみ



所沢図書館だより
復刊12号(通巻90号)
題字 高橋 玄洋 氏

目次	
P.1-3	図書館文化講座 講座報告
P.4	トベアの本館めぐり ～3階～
P.5	データベース
P.6	レファレンスサービス

平成27年度図書館文化講座

「武蔵武士 畠山重能・重忠とその時代」

講師 清水亮氏 (埼玉大学教育学部准教授)
平成28年1月23日(土) 会場 所沢図書館本館

近年、畠山重能・重忠親子や彼らが属する秩父平氏という武蔵国で最大クラスの武士団の研究が新段階を迎えております。今回は、最近の研究成果を交えてお話しさせていただきます。

畠山氏の成立と展開

秩父平氏武士団の嫡流である畠山氏や河越氏は、重能の祖父秩父重綱から今でいう県庁の機能をもつ国衙(こくが)に影響を持つようになります。重綱の妻は、児玉党出身で源頼朝の兄義平の乳母でもあった乳母御前であり、彼女の兄弟は重綱の養子となっています。すなわち、重綱は義平の父義朝と重綱主従関係もしくは同盟関係を結んだと考えられます。このように、重綱は有力な武士団と婚姻関係や同盟関係を結んでいました。重綱の息子の中で「秩父」を名乗るのは、畠山氏の祖である長男重弘と河越氏の祖である次

男重隆です。秩父平氏の家督を継いだのは次男重隆です。これが、後の長男流と次男流の軋轢につながり、重弘の息子である重能の行動に現れてきます。

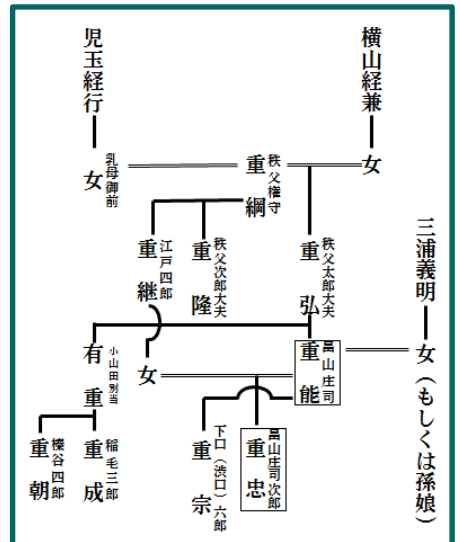
源義平が、大蔵館を襲って叔父の源義賢とその後見人である秩父重隆を殺した大蔵合戦が起こります。背景には、源氏一門内部での抗争があります。義平や頼朝の父義朝は、父為義に廃嫡されて東国に下ります。義朝は、重能をふくめた南関東の武士を軍事基盤にしつつ、自力で鳥羽院に仕える立場を得ます。義朝の独立志向を危険視した為義は、鎌倉を本拠とした義平に対して、義朝の弟義賢を東国に下し、義賢は重隆と提携して大蔵館に入ります。

この源氏の武力抗争に秩父平氏の家督争いが結びつきます。乳母御前が義平の乳母であったため、彼女の実家である児玉党

は重能とともに義平側に付きます。そして、大蔵合戦後、重能が秩父一族の家督・武蔵国内武士の最有力者となります。

重能 源氏家人から平氏家人へ

義朝・義平親子との関係が強い重能はどのように勢力を強めたのでしょうか。重能の通称は「畠山庄司重能」です。通説では、畠山庄の下司(荘園の現地管理人)だと考えられてきました。だが、私は、畠山を本拠とした荘園の下司という意味ではないかと考えています。『鎌倉年代記裏書』等によると重忠の弟は下口もしくは、渋口六郎重宗とあります。すなわち、重宗は、現在の神奈川県にある武蔵国稲毛荘内渋口郷を領地としていた



のではないかと考えるのです。

近年の研究で、保元の乱前後に稲毛荘は成立し、当時の武蔵国司は、平治の乱を引き起こした義朝の盟友藤原信頼であったことがわかっています。大蔵合戦は国衙の役人である重隆を源氏が殺した事件であるにもかかわらず、国司の信頼は源氏に罰を下していません。このことから、信頼は大蔵合戦の義平の軍事行動を支持していたと考えられます。荘園は国の領地の一部を貴族等の領地にするため、国司の承認が必要です。従って、

①稲毛荘は、武蔵国司信頼、義朝・義平親子、重能らの連携によって作られた、②「畠山庄司重能」の「庄司」の由来は稲毛荘にあり、そのために重忠の弟が稲毛荘内に領地を持つことができた、と私は考えています。

平治の乱は朝廷にクーデターを起こした信頼と義朝が平清盛に滅ぼされる事件です。その後、稲毛荘の年貢が奪われる事件が起こります。これは、稲毛荘の現地支配者が平治の乱の関係者で、影響力を失ったために起こった事件である可能性が高

く、私は、稲毛荘の現地支配者が重能だという状況証拠になりうると考えています。とすると重能は大蔵合戦によって、武蔵国の最有力武士として秩父一族の家督という地位を手に入れ、稲毛荘という荘園を作り上げ、平治の乱後に立場を急激に悪化させたということになります。

しかし、『吾妻鏡』や『愚管抄』では、重能と弟小山田有重が武蔵武士の代表格、あるいは東国の平氏郎等として名指しされています。すなわち、平治の乱直後の苦境からおよそ20年で重能は、東国の平氏郎等の代表的存在に上りつめたということになります。

通説では、重忠の母は三浦義明の娘（もしくは孫娘）と考えられています。しかし、『小代系図』等では重忠の母は重綱の四男である江戸重継の娘と書かれています。また、平児玉氏（重綱の養子になった児玉党の家系）の蓬萊経重は、同じ母から生まれた重忠の兄だと記載されています。すなわち、重忠をめぐる親子関係は、平児玉氏、江戸氏、畠山氏といずれも重綱

の家系であるということです。この関係からは、秩父平氏の有力な家であり、平氏の支配下で武蔵国の最有力者に取り立てられた河越氏が外れています。重能が、河越氏をけん制するため、河越氏を除く秩父平氏との連携を強化し、江戸氏出身の女性から重忠をなした可能性は極めて高いと考えられます。

この婚姻策は、武蔵国での地位回復だけでなく、平氏との関係を良くするという点でも有効に働いた可能性があります。重能の正妻は三浦義明の娘（もしくは孫娘）ですが、源義平の母も三浦義明の娘とされているのです。重能は、源氏と結びつきが深い三浦氏との関係を薄めようとしたのではないのでしょうか。

在地領主としての畠山氏

畠山氏の本拠地は、その近くを鎌倉街道とその支線が通っており、荒川に面する流通経済の要衝でした。当時の有力武士は京都と現地を移動する存在でした。重綱の時代から秩父平氏は京都で培われた宗教や技術等の文化を地域に還元する働きをしていました。その現れが、畠

山氏のもう一つの本拠である菅谷館と平沢寺です。平沢寺は秩父重綱が整備を進め、東日本最大規模の堂（阿弥陀堂か）を備える浄土庭園があったと考えられています。浄土庭園は、極楽浄土の世界を現世に再現している空間です。このことから、京都における浄土信仰とそれに伴う土木技術、仏教芸術を持ち込む情報と力を畠山氏が持っていたことがわかります。流通経済を掌握することで地域を支配し、仏教的救済の要素を地域社会に持ち込み、受け入れられる要素を作っていたと言えます。

平治の乱以降の武蔵国の有力武士団は、畠山氏、河越氏、多摩地域に勢力を伸ばした横山党などです。畠山氏は畠山を中心とした武蔵国北西部、稲毛荘のある武蔵国東南部に軍事的テリトリーを持つ大型の在地領主でした。軍事的テリトリーとは、税が取れる領地ではなく、軍事を動かせる縄張りのことです。これらの地域を畠山氏と近隣に居住する中小武士である郎等が連携して支配していたと考えられます。このような地域基盤を

もつ畠山重能は、源氏家人から平氏家人に転身しました。その過程で重忠が生まれたのです。

重忠と頼朝

畠山重忠は平治の乱後に生まれました。重忠は父重能が源氏に従っていた時代を知らずに育ったのです。

武蔵国は、平治の乱によって平家一門の支配下に置かれ、それを頼朝が実力で奪取しました。鎌倉幕府は武蔵国を知行国（政治を行う国司を推薦し、年貢を取る国）として朝廷に認めてもらいます。武蔵国は、鎌倉街道で鎌倉とつながっていたため、その支配は頼朝にとって重要であり、源氏一門の平賀氏が国司となりました。また、頼朝挙兵後、当初平家方だった秩父平氏嫡流の面々が服属した時、頼朝は、平氏政権下で秩父平氏の代表とされていた河越重頼をけん制し、秩父平氏嫡流の中では傍流である江戸重長に（一時的に）国衙・郡司の指揮権を与えます。さらに、頼朝は、出陣する際など先陣を重忠とします。秩父平氏を取り込みつつ、個々の人間関係をかく乱する方法をとつ

たのです。そして、武蔵国内の個々の武士は御家人として頼朝に従います。つまり、武蔵国は国司などを通じた統制的支配と、頼朝と個々の武士との主従関係によって支配されていたのです。

『吾妻鏡』によると頼朝が信頼している御家人11人の中に重忠の名前はなく、その従兄弟で小山田有重の息子榛谷重朝の名前があります。つまり、頼朝は、重忠を畠山一門の家督として認めながらも、重朝をより信頼していたといえます。また、重朝の兄小山田重成は、『吾妻鏡』で稲毛三郎重成と呼ばれるようになっており、稲毛荘支配の主導権は小山田氏に奪われた可能性が高いと考えられます。さらに、有重は頼朝に対面した形跡があり、息子とともに頼朝と関係をつなぐことで勢力拡大を図り、畠山氏と張り合おうとした可能性があると言えます。一方、重能は最後まで平氏家人としての生き方を貫いた可能性が高いと考えられます。重忠は頼朝に重要視されると同時に警戒されてきました。菅谷館にいた重忠が頼朝に謀反の

疑いをかけられる事件が起こります。この時、頼朝が重忠への処遇について御家人達に尋ねる記述が『吾妻鏡』にあります。

頼朝は、場合によっては、重忠の言い分を聞かずに追討することを考えていました。結局、重忠は使者として派遣された仲間御家人の説得によって鎌倉に入ります。この時、重忠は梶原景時に逆心はない旨の起請文の提出を求められましたが、それを拒否しました。謀反の噂はかえって名誉なことだとした上で、自分で頼朝を主人として選んだので二心はないと言うのです。

主君・藩のために尽くす近世とは異なり、中世では家臣が主人を選ぶことができたことの現れです。また、重忠は、起請文の提出を求めた景時だけでなく頼朝への批判ともとれる発言をしています。ここから、重忠の自立性の高さがうかがえます。

頼朝は畠山氏を含む秩父平氏嫡流の構成員の序列をかく乱することで武蔵国支配の実効性を高めようとしたが、彼らの勢力基盤については、基本的に活用しました。また、頼朝は自

立性の高い有力武士のあり方を否定せず、彼らを臣従させることで、武蔵国の安定化を図りました。しかしこれは、頼朝だからこそのできたことだと思われる。頼朝の死後、北条氏は幕政や武蔵国の掌握を進めます。しかし、將軍家の外戚とは言え、北条氏は御家人です。したがって、畠山氏など自立性の高い武士を従属させることは難しかったため、彼らを滅ぼしたのではないかと考えられます。以上が畠山氏について、近年の研究状況をふまえた私の見解です。

《参考文献》

『畠山重忠』（戎光祥出版）
『馬の博物館研究紀要』19号

（馬事文化財団）



トベアの本館めぐり②

3階



ぼくは図書館のマスコット「トベア」。
前回の1階2階に続き、今回は3階を案内するよ！

所沢市立所沢図書館（本館）

〒359-0042 所沢市並木 1-13

TEL 04(2995)6311 FAX 04(2992)1421

西武新宿線航空公園駅より徒歩5分

図書館での役目を終えた本をリサイクル本として提供しているよ。

講座が開催されているよ！興味があるものに参加してみよう。

うわあ！辞書や辞典がたくさん！専門的なことまで調べられるね。

ここでは本が読めるよ。

読書室

集会室

集会室

読書室

読書や調べものができるよ。ひとりずつ机があるから集中できるね！土日はいっぱいになることもあるよ。

参考図書コーナー

リサイクル本コーナー

3階

読書コーナー

インターネットも使えるんだね。詳しくは次のページを見てね。

インターネット端末

EV

トイレ

所沢ゆかりの作家は誰かな？

郷土資料コーナー

調べたいことがあったら、何でも相談してね！

郷土資料コーナー

読書コーナー

新聞縮刷版コーナー

レファレンスカウンター

明治や大正の新聞があるよ。自分の生まれた日の新聞を探してみよう！

インターネット端末を使って調べものをしてみよう！ ～ データベース ～



図書館にあるインターネット端末で、データベースが利用できるって、聞いたんだけど、どんなデータベースが利用できるの？

現在、7社のデータベースと契約しています。

【全館で使えるデータベース】

- ①朝日新聞オンライン記事検索データベース 聞蔵Ⅱビジュアル
(朝日新聞・AERA・週刊朝日・知恵蔵など)
- ②読売新聞記事データベース ヨミダス歴史館
(読売新聞・The Japan News など)
- ③Web OYA-bunko 大宅壮一文庫雑誌記事索引検索

【本館で使えるデータベース】

- ④日経テレコン (日本経済新聞・日経産業新聞など)
- ⑤D1-Law.com 第一法規 法情報総合データベース
(現行法規履歴・判例大系など)
- ⑥官報情報検索サービス

【本館・所沢分館・新所沢分館で使えるデータベース】

- ⑦国立国会図書館 歴史的音源



知恵蔵や雑誌、過去の法律も検索できるよ！



いろいろあるんだね。どんなことを調べるときに使えるのかな？

データベースそれぞれに特徴があります。
実際にどんな調べものに使ったか、ご紹介しましょう！



【事例1】

1963年、アメリカの原子力潜水艦「スレッシャー」と1968年「スコープオン」が核兵器を積んだまま北大西洋バミューダ海域に沈没した。当時の新聞記事が見たい。



【聞蔵Ⅱビジュアル】

【ヨミダス歴史館】
で調べました！

【事例2】

ロス疑惑についてジュリストの何号に載っているか調べたい。1994年以降にあると思われる。



【第一法規 法情報総合データベース】

で調べました！



そんなことも調べられるんだ！利用したいときはどうしたらいいの？

みなさん使ってみてください！

各館のカウンター（本館は3階参考図書室）へ利用券または、本人を確認できるもの（運転免許証・健康保険証・学生証など）をお持ちになりお申し込みください。図書館の開館時間内にご利用いただくことができます。ご不明な点は、図書館職員にお尋ねください。



図書館の便利なサービス レファレンスサービスを知っていますか？

図書館サービスの一つとして図書館職員が、利用者の調べものや資料・情報を探すお手伝いをするレファレンスサービスがあります。日常生活で生じた疑問や調べたいことがありますたら、各図書館のカウンター、電話等で受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。

所沢図書館レファレンス登録件数

年度	郷土関連	その他	全体
H24	110	458	568
H25	147	651	798
H26	185	815	1000
H27※	137	705	842
計	579	2629	3208

※平成28年2月末までの登録件数

(一)で、所沢図書館で実際に受けたレファレンスの一部をご紹介します。

① 所沢市に日本初の飛行場ができた理由について調べたい。
② 蝶は頭とも数えるが、どうしてか知りたい。

③ 石川啄木の『不来方のお城の草に』ではじまる短歌の不来方(こずかた)はどういう意味か。
④ レオナルド・ダ・ヴィンチ作『最後の晩餐』のメニューが知りたい。

⑤ 綿を入れた座布団の作り方が知りたい。

このように、質問の内容は多岐に渡っており、図書館職員が図書や雑誌、新聞、データベース、インターネット等を使用して、一件ずつ調査を行っています。

所沢図書館ではこうしたレファレンス回答の一部を、国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」で公開しています。この「レファレンス協同データベース」は、全国の公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館のレファレンス事例を検索することができます。平成28年3月17日現在、全国の696館の図書館がこのデータベースに参加館として登録しています。

この度、所沢図書館では、「レファ

レンス協同データベース」に多くの事例を公開

したということで、国立国会図書館から御礼状をいただきました。

これは、昨年度に引き続き2回目です。御礼状の対象館となったのは、県内では、所沢図書館、埼玉県立久喜図書館、さいたま市立中央図書館のみとなっています。

公開しているレファレンス事例は、所沢図書館のホームページでもご覧いただけます。これからも皆様の調査・研究に対してより良い情報提供ができるよう努めてまいります。調べ物の際は、お気軽に所沢図書館をご利用ください。

編集後記

◆ 図書館で働き始めて5年、最後の仕事は、学生時代お世話になった先生の講座録となり、とても感慨深いです。今後は利用者として図書館にお世話になります。(T)



編集発行：所沢市立所沢図書館 〒359-0042 所沢市並木1-13

ホームページアドレス パソコン <https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp>

携帯電話 <https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp/k>

スマートフォン <https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP>

電話 / FAX

本館 04-2995-6311 / 04-2992-1421

所沢分館 04-2923-1243 / 04-2928-8195

椿峰分館 04-2924-8041 / 04-2928-8148

狭山ヶ丘分館 04-2949-1193 / 04-2949-8577

松井小学校図書館 04-2992-2796 / 04-2992-2797

富岡分館 04-2943-3636 / 04-2943-6680

吾妻分館 04-2924-0249 / 04-2928-8250

柳瀬分館 04-2944-4023 / 04-2945-7236

新所沢分館 04-2929-1905 / 04-2929-1906

2016年3月31日発行 復刊いずみ12号 (通巻90号)